

団体・組織の概要

※太枠内、必須事項。その他は、該当する項目を記載してください。

| | | | |
|--|---|----------------------------|------------|
| 団体/会社名 | 豊平峡・定山溪ダム水源地域ビジョン推進会議 (愛称：みずもり会議) | | |
| 代表者 | 増田 幸子 | 担当者 | 中田 光治 |
| 所在地 | 〒 003-0012 札幌市白石区中央2条4丁目6番8号 TEL: 011-780-1120 FAX: 011-780-1130 E-mail: k-nakata@ndsinc.co.jp | | |
| 設立の経緯 ／沿革 | 平成16年2月 豊平峡・定山溪ダム水源地域ビジョン検討委員会として発足 平成18年3月 豊平峡・定山溪ダム水源地域ビジョンを策定し、国土交通省 石狩川開発建設部長に提言 平成18年4月 豊平峡・定山溪ダム水源地域ビジョン推進会議として再出発 当初会員数は15名程度 平成19年12月 現在の会員数は25名程度 | | |
| 団体の目的 ／事業概要 | <p>私たち豊平峡・定山溪ダム水源地域ビジョン推進会議は、190万人札幌市民の水がめである豊平峡ダム・定山溪ダムという2つのダム及びその周辺地域の環境を保全することを目的としています。そのためには、2つのダムと密接に関連する水源地域の自立的かつ持続的な発展、活性化が不可欠です。</p> <p>ダム及びダム湖周辺は、支笏洞爺国立公園特別地域に指定されており、そこには豊かな自然環境があります。野生動植物も豊富で、動物の象徴種をはじめアンブレラ種も多く、また植物を見ても水生植物から森林に至るまで多様な生態系があります。こうした生態系を、ダムに来てもらい体感していただくことが私たち推進会議の活動の大きな目的となっています。</p> | | |
| 活動・事業実績 (企業の場合は 環境に関する 実績を記入) | <p>平成19年6月 北海道いい川づくりワークショップに参加し、発表(豊平川水系)</p> <p>平成19年6月 北海道フラワーソン調査に2つのグループで参加(小樽内川)</p> <p>平成19年7月 定山溪ダム上流部にて自然環境調査</p> <p>平成19年7月 定山溪鉄道の廃線跡地、駅舎跡の調査</p> <p>平成19年8月 「豊平峡やまびこの里」の著者小阪晋吾氏からヒアリング調査</p> <p>平成19年9月 小樽内川秋の自然観察会の実施</p> <p>平成19年9月 先進地域漁川ダムの森林活動、ダム見学会への参加</p> <p>平成19年10月 小中学校の先生方を対象としたダム研修会の開催</p> <p>平成19年10月 歴史文化グループ主催の定山溪温泉地区の見学会の開催</p> <p>平成19年11月 道民森づくりネットワークの集いにおいてパネル展示に参加</p> <p>平成19年11月 定山溪温泉市街地の見学会の実施</p> <p>平成19年12月 札幌市内の小中学校200校を対象としたアンケート調査の実施</p> <p>平成20年2月 札幌市環境プラザにてパネル展示(予定)</p> <p>平成20年5月 水源地域の森林整備に関するシンポジウムの開催(予定)</p> <p>平成20年8月 小中学校の先生方を対象としたダム研修会の開催(予定)</p> | | |
| ホームページ | 現在、開設の準備中 | | |
| 設立年月 | 平成18年 2月 | *認証年月日(法人団体のみ) | 年 月 日 |
| 資本金/基本財産 (企業・財団) | 500,000 円 | 活動事業費/ 売上高(H17) | 1,000,000円 |
| 組 織 | <p>スタッフ/職員数 25名(内専従 0名)</p> <p>個人会員 25名 ; 法人会員 0名 ; その他会員(賛助会員等) 0名</p> | | |

政策のテーマ 環境学習に関する 305 校アンケート調査結果を札幌から全国に発信！

■政策の分野

- ・自然環境の保全
- ・環境パートナーシップ

■政策の手段

- ・環境教育・学習の推進
- ・人材育成・交流

団体名：豊平峡・定山溪ダム水源地域ビジョン
推進会議（愛称：みずもり会議）
担当者名： 中 田 光 治

| | | | | | |
|--------|----------|------------|-------------|-----------|----------------|
| ■キーワード | 生物多様性の保全 | 野生生物の保護・管理 | 学校の先生への情報提供 | 環境学習の実態把握 | 一般市民へ水源地域のアピール |
|--------|----------|------------|-------------|-----------|----------------|

① 政策の目的

- ・札幌市内の小中学校310校を対象とした「環境学習に関するアンケート調査」を、平成18年度、19年度の2年間で実施しました。
- ・そのアンケート調査の回答結果を基に、市内の小中学校の先生方を対象とした「ダム研修会」を、自主事業として開催しました。
- ・また、2年間をかけて実施した「環境学習に関するアンケート調査」の結果を分析して、全国にその結果を、情報発信することを目的とします。
- ・さらに、アンケート調査の回答結果を分析し、環境学習、自然環境保全、ダム及びダム湖に関心を持っていると考えられる先生を対象にして、平成19年10月に「ダム研修会」を実施しました。
- ・また、札幌市の一般市民を対象として、流域一貫となった水と土砂管理の重要性、水源地域の森林生態系保全などの重要性をアピールするために、「水源林の保全に関するシンポジウム」を、北海道大学と共催で、平成20年6月を目処として、開催することを目的とします。
- ・平成20年度は、これらの実績を背景として、札幌市内の小中学校309校のアンケート調査結果を集計、分析、結果の公表をして、札幌市の学校教育に資する資料を提供することを目的とした活動を行います。
- ・併せて、札幌市の一般市民に対しても、ダム水源地域の大切さ、ダム湖周辺地域の自然環境の豊かさ、流域一体とした水と土砂管理の必要性、流域の森林保全の重要性などをアピールするためのシンポジウムを開催することを目的として活動を行います。

② 背景および現状の問題点

- ・現在、札幌市水道の98%が豊平川水系の豊平峡ダム・定山溪ダムを含む表流水から供給されていますが、このことを認識している市民は少ないのが現状です。
- ・また、現在市内の小中学校では、総合的な学習が実施されていますが、地球温暖化防止や地域の身近な自然を保全する環境教育や環境学習が、ほとんど行われていません。
- ・こうした現状を正確に把握するために、私たちは平成18、19年度の2年間にわたり、自主事業として市内310校の小中学校に対し、20項目に及ぶアンケート調査を実施しました。
- ・また、北海道の自然環境、生態系、野生の動植物などは、全国的に見れば優れており、豊かな自然環境が保全されていると思われていますが、年々自然環境の衰退、消失が見られます。
- ・特に、近年、北海道においては、農地や森林の放置、間伐や下草刈など森林維持の減少、外来生物による在来種の駆逐など、地域固有の自然環境の破壊が見られます。
- ・このような水源地域の自然環境の保護・保全、適正な利用・整備の重要性をアピールするために、一般市民を対象としたダム湖周辺の自然環境保全を目的としたシンポジウムを開催し、この中で流域の森林の意義や森林保護・活用について情報の発信を行う予定です。

札幌市の水道の水源

| 浄水場名 | 水源の種類 | 水源別の使用水量 | 給水能力 (m ³ /日) |
|--------|----------------------|-----------|-----------------------------|
| 藻岩浄水場 | 豊平川表流水 | 163,000 | 155,000 |
| 白川浄水場 | 豊平峡ダム貯留水 定山溪ダム貯留水 | 840,000 | 650,000 |
| 定山溪浄水場 | 豊平峡ダム貯留水 定山溪ダム貯留水 | 10,000 | 9,000 |
| 西野浄水場 | 琴似、発寒川表流水 | 16,200 | 15,600 |
| 宮町浄水場 | 星置川表流水 | 6,000 | 5,600 |
| | 合 計 | 1,035,200 | 835,200 |

- また、市内の小中学校における環境学習や体験学習のより一層の発展、推進を目的として、アンケート調査の結果を活用して、平成19年10月に小中学校の先生方を対象としたダム研修会を開催しましたが、これと同様の趣旨の事業を20年度においても、継続実施する予定です。

③ 政策の概要

- 私たちみずもり会議は、平成18年11月に札幌市内の小中学校100校を対象として、環境学習の取り組み実態、環境学習の実施場所、ダムを環境学習に活用したことの有無等、20項目以上の質問を作成し、アンケート調査を実施しました。
- その結果は回答数が44校（44%）で、環境学習に取り組んでいる学校は、約35校で、回答してもらった学校全体の80%以上の学校が取り組んでいることがわかりました。しかし、環境関係をメインのテーマに取りあげている学校は思ったより少なく、15校程度でした。
- また、河川やダムを環境学習の場として活用したところのある学校は、さらに少なく3校で、回答があった学校の5%程度でした。
- しかし、私たちは44校の学校の先生から回答があったことを有効に活用し、平成19年10月に、小中学校の先生を対等とした「ダム研修会」を企画し、開催しました。当該研修会への呼びかけは、最初はアンケート調査に回答してもらった学校、44校全てに案内書を送付しました。
- しかし、参加申し込み数が予想より少なかったことから、第2弾の広報活動として、アンケート調査の回答の中で、ダムに興味を持ってほしいような先生、環境学習の取り組みに積極的な先生などを抽出して、さらに勧誘を行いました。
- その結果、10月のダム研修会には、13名の先生から参加の申し込みがあり、我われみずもり会議のメンバー、国土交通省、石狩森林管理署等の関係行政機関、さらに北海道電力などの企業も含めて総勢40人以上が参加して、盛大に「ダム研修会」を実施することができました。
- 当日のバスの賃貸料、保険料などは、私たち会員のカンパで賄い、参加者から料金を徴収することはありませんでした。これは、私たちみずもり会議のことを知っていただきことと、私たちが活動の拠点としている2つのダムに来ていただくことが、目的だったためです。
- 私たちは、平成19年度も、札幌市内の小中学校205校を対象として「総合学習の取り組み状態等に関するアンケート調査」を実施しました。結局2年間で、札幌市内の小中学校の全校、309を対象として、調査を実施することにしました。
- このアンケート調査の結果を集計・分析し、さらに市内の学校関係者、一般市民を対象として、このアンケート調査の結果を広く情報発信をしていきたいと考えています。
- また、このアンケート調査の結果を活用して、平成19年10月に開催した小中学校の先生を対象とした「ダム研修会」を、平成20年度も実施していきたいと考えています。
- さらに、アンケート調査の結果を広く市民に公表することと、ダム水源地域の自然環境や生態系保全の重要性をアピールすることを目的として、平成20年6月を目処として「水源地域の自然環境保全に関するシンポジウム」を開催したいと考えています。
- こうした学校教育に対する環境学習面での支援のための「ダム研修会」、一般市民に役に立つ情報の発信などを目的とした「シンポジウム」を開催するために、環境省の環境政策提言に応募することにしました。

④ 政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

(1) ダム研修会について

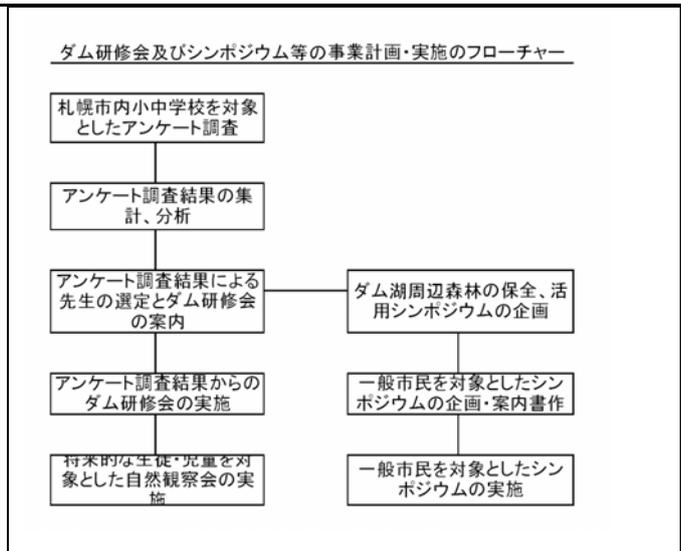
- 私たちは、札幌市内の小中学校309校を対象として、平成19年度、20年度の2年間で「総合学習に関するアンケート調査」を実施し、環境学習に関する取り組みの実態など、貴重なデータを得ることができました。
- 私たちは平成19年度の調査で、回答のあった44校の回答結果を詳細に分析し、総合学習の取り組みの実態、総合学習の中で自然環境を取り上げている学校の実態、河川やダムを環境学習の場として活用している状況などについての実態を把握することができました。
- この平成19年度のアンケート調査結果を有効に活用し、平成19年10月に、小中学校の先生を対等とした「ダム研修会」を企画し、開催しました。当該研修会への呼びかけは、最初はアンケート調査に回答してもらった学校、44校全てに案内書を送付しました。
- しかし、参加申し込み数が予想より少なかったことから、第2弾の広報活動として、アンケート調査の回答の中で、ダムに興味を持ってほしいような先生、環境学習の取り組みに積極的な先生などを

抽出して、さらに勧誘を行いました。

- その結果、10月のダム研修会には、13名の先生から参加の申し込みがあり、我々、みずもり会議のメンバー、国土交通省、石狩森林管理署等の関係行政機関などを含めて、自主事業として盛大に開催することができました。
- これらの経験を基に、平成20年度においても小中学校の先生を対象とした「ダム研修会」を開催し、先生方にダムを訪問してもらい、水源地域の自然環境を体感し、ダムの役割などダムの概要に関する情報の提供を行いたいと考えています。

(2) シンポジウムについて

- 私たちの活動の場である豊平峡ダム・定山溪ダムを含めた豊平川表流水は、札幌市の水道用水の約98%を占めています。この2つのダムがなければ札幌市民190万人の生活が、なり立たなくなります。
- しかし、このことを認識している市民はほとんどいません。幸いなことに札幌市では、降水量や降雪量が多く、ダムの建設も普及しているなど水資源に恵まれており、渇水の経験はほとんどありません。
- こうした現状を正しく認識し、将来にわたって札幌市の水道水源を確保していくために、は札幌市民全体がこのことを認識し、水源地域を保護、保全、活用していくなかで、水源地域の振興、活性化を図っていくことが必要です。
- このような水源地域の自然環境を保護・保全するとともに、ダム湖周辺地域の森林を保全し、生態系並びに野生動植物の生育・生息環境を保全するために「水源地域の自然環境を保全するためのシンポジウム」を開催したいと考えています。
- 当該シンポジウムは、北海道大学北方生物圏フィールド科学センターと共催し、基調講演は同センターの教授にお願いし、「水源地域の森林環境の保全（仮称）」、さらにわたしたちのメンバーによる「ダムの目的と構造等の概要」、「札幌市民の小中学校を対象とした総合学習に関するアンケート調査結果報告」等の内容で、一般市民に向けたシンポジウムを開催する予定です。



⑤ 政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

(1) ダム研修会について

- ダム研修会の実施主体は、わたしたち「みずもり会議」です。ただし、平成19年度もお願いしたように、協力主体として国土交通省石狩川開発建設部、河川環境管理財団、後援主体として、北海道庁、札幌市、林野庁石狩森林管理署、環境省、北海道電力株式会社のご協力もお願いしたいと思えます。
- ダム研修会は、札幌市民の小中学校の先生を対象として実施し、豊平峡ダムまたは定山溪ダムの堤体や監査廊の見学、ダム湖の水質調査、ダム湖周辺の森林生態系の観察など幅広い内容で開催したいと考えています。

(2) 水源地域の森林を保全するシンポジウムについて

- 当該シンポジウムは、ダム湖周辺地域の生態系の保全と、水源地域の自立的・持続的発展を支援するため、北海道大学北方生物圏フィールド科学センターと連携しつつ、広く一般市民向けに情報発信を行うために開催します。
- ただし、当該シンポジウムの企画・運営は、すべて私たちが行い、運営費用も私たち会員のカンパなどの自主財源で行いたいと考えています。
- 当該シンポジウムでは、私たち「みずもり会議」の存在と活動内容を広く札幌市民にアピールするため、本会のチラシを配布したり、会員の勧誘なども併せて行うことも考えています。また、本会の活動の一環として、本会の会員による、ダムの概要や総合的な学習に関するアンケート調査結果の公表等を考えています。

⑥ 政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

- ・ 私たちが「ダム研修会」を開催することにより、札幌市民の小中学校に、総合的な学習に対する取り組み意欲が湧き、さらに環境学習に対する必要性を再認識させることが可能になります。
- ・ また、総合学習に関するアンケート調査を実施し、その回答結果を集計、整理、分析することにより、小中学校の総合学習の取り組み実態、環境学習や体験学習の実施状況、実施場所、河川やダムに関する考え方などを、把握することができます。
- ・ 小中学校の先生を対象とした「ダム研修会」を開催することにより、先生から児童・生徒に河川やダムの概要やダム湖周辺地域の森林の意義が、再認識され、興味を呼び起こすことができます。
- ・ また、その結果将来的にダムに行こうという児童・生徒が出現し、将来的に児童・生徒を対象とした「ダム見学会」や「ダム湖周辺での自然観察会」などの自主事業に開催も考えられます。
- ・ 札幌市の一般市民に向けて「水源地域の森林保全のためのシンポジウム」を開催することにより、ダム湖周辺の豊かな自然環境、生態系、野生動植物の状況などの情報を、提供し発信することができます。
- ・ その結果、ダムを訪れよう、ダム湖周辺の自然環境を体験しようという市民が、出現してくることが考えられます。
- ・ さらに、ダム湖周辺地域の森林の保全、河川やダム湖の水質確保、野生動植物の保護期間・保全や外来生物の移入規制の考え方に、協力していただくことが期待されます。
- ・ また、札幌市民に対し、幅広く水源地域の自然環境、野生動植物、歴史・文化などの情報を発信することが可能になります。

⑦ その他・特記事項

- ・ 私たちは、札幌市内の小中学校310校を対象とした「環境学習に関するアンケート調査」を、平成18年度、19年度の2年間で実施しました。このアンケート調査の回答結果を基に、市内の小中学校の先生方を対象とした「ダム研修会」を、平成19年10月に、自主事業として開催しました。
- ・ また、2年間をかけて実施した「環境学習に関するアンケート調査」の結果を集計、分析した上で、調査に協力していただいた小中学校ならびに札幌市内309の小中学校、札幌市教育委員会に報告し、この結果を今後の環境教育や体験学習などの参考にさせていただければと思っています。
- ・ さらに、このようなユニークな調査結果を、全道はもとより全国に、情報の発信をしていきたいと考え、平成20年度の活動目標としていきます。
- ・ さらに、アンケート調査の回答結果を分析し、環境学習、自然環境保全、ダム及びダム湖に関心を持っていると考えられる先生を対象にして、平成19年10月に「ダム研修会」を実施しましたが、この取り組みを平成20年度においても実施していきたいと考えています。
- ・ また、札幌市の一般市民を対象として、流域一貫となった水と土砂管理の重要性、水源地域の森林生態系保全などの重要性をアピールするために、「水源林の保全に関するシンポジウム」を、北海道大学と共催で、平成20年6月を目処として、開催することを目的とします。
- ・ 平成20年度は、これらの実績を背景として、札幌市内の小中学校309校のアンケート調査結果を集計、分析、結果の公表をして、札幌市の学校教育に資する資料を提供することを目的とした活動を行います。
- ・ 併せて、札幌市の一般市民に対しても、ダム水源地域の大切さ、ダム湖周辺地域の自然環境の豊かさ、流域一体とした水と土砂管理の必要性、流域の森林保全の重要性などをアピールするためのシンポジウムを開催することを目的として活動を行います。
- ・ このような貴重かつ建設的な事業は、全国的にも珍しく、貴重な事業となると考えています。また、こうした事業を推進していくためには、事業資金が必要となりますので、是非、環境省の政策提言に取り上げていただければと思います。

以上

